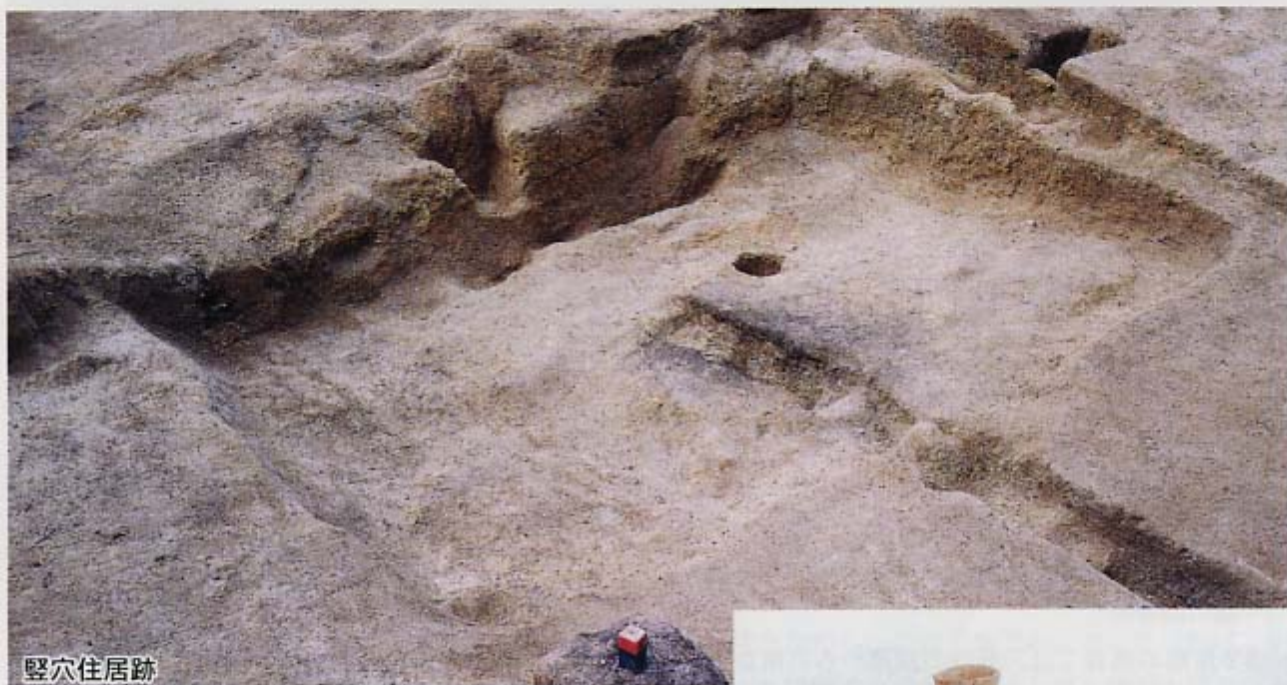


阿岐のまほろば Vol. 9

弥生時代の住まいと墓

西本2号遺跡(高屋町杵原)



竪穴住居跡

西本2号遺跡は、高屋町杵原に所在し、学校のグラウンド造成事業に伴い、平成9年4月から6月まで調査を行いました。

この遺跡の大部分は、22年前に発掘調査が行われ、集落と墳墓群が見つっています。

今回の調査では、前回の調査で検出した溝の続きと、弥生時代後期の竪穴住居(1軒)が見つかりました。また、住居跡内からは土器(鉢・長頸壺)の他に石器が出土しました。石器は、砥石の他にドリルのように、石の先端部を加工したものも出土しています。これは環状石斧(円盤状で中央に孔があいている磨製石斧)の中央の孔をあけるために使われたものだと考えられます。

その他、弥生時代後期から古墳時代の初め頃の土器の中には、山陰系の土器も見つっています。



出土した遺物



西本2号遺跡位置図(1:50,000)



石棺墓・土壙墓群

上の写真は、昭和50年に行った西本2号遺跡（D地点）の調査風景です。（写真上側の林部分が今回の調査区）

22年前の調査では、丘陵の頂部から石棺群と土壙墓群（D地点）が見つかり、墳墓群を囲むように溝が巡っていました。

また同じ丘陵の斜面からは、竪穴住居跡（E・F地点）が見つっています。

こうしたことから、西本2号遺跡は溝によって、生活する場所（住まい）と、埋葬する場所（墓）

を区別していたことがうかがえます。

また西本2号遺跡から、南西に約250m離れたところに西本3・4号遺跡があります。

この遺跡は現在調査中で、西本2号遺跡とほぼ同時期の集落跡であったことが、明らかになりつつあります。

こうした住居跡の中には、下の写真のような焼けた竪穴住居跡も見つっています。



調査風景



焼けた竪穴住居跡

焼けたすまいから出てきた遺物

おごえ
小越遺跡(志和町志和東)



蓋形土器、壺形土器、鉢形土器



甕形土器

小越遺跡は、平成8年10月に発掘調査が終了し、土器の接合などの整理作業を実施していましたが、このほど、整理作業が終了しました。

上の写真は、2枚とも「阿岐のまほろばVol.7」で紹介した焼けたすまいから出土した土器群です。これらは弥生時代後期初頭(約1800年前)に使われていた家財道具です。



小越遺跡位置図(1:50,000)

残念ながら、これらをどのように使い分けていたのかは明らかではありませんが、甕形土器のうち底に穴が開いているものは甗(蒸器)だったのかもしれない。

下の写真は、砥石や作業台として使われた台石で、火にあたっただけで石の表面がはじけ飛んだり割れたりしています。

弥生時代の人々はこれらの土器や石を使ってどのような生活を営んでいたのでしょうか。



台石

分銅形土製品



市内の遺跡から出た分銅形土製品

ふんどうがた ど せいひん てんびんばかり
分銅形土製品は、天秤量りの重り(分銅)に形が似ていることから付けられた名前で、弥生時代中期から後期にかけて見られるものです。完全な形で出土することはほとんど無く、割られたものが住居や集落近くの谷から出土するのが普通です。

割って片割れを捨てているらしく、縄文時代の土偶と同じように呪いの道具と考えられています。

分銅形土製品の分布範囲は、備讃瀬戸を中心に山口県東部以東の中国地方と、近畿地方西半部から出土しています。東広島市内では現在までに10遺跡から25個出土しています。広島県では平成9年6月末現在で28遺跡から56個が出土していて、半数近くが東広島から出土している事になります。

写真の分銅形土製品は、文化財センターが過去4年間で調査した4遺跡から出土した16点です。



出土遺跡名

- 1 西東子遺跡 (にしあずまこ)
- 2 下上戸遺跡 (しもがわ どの)
- 3 小越遺跡 (おごえ)
- 4 西本3・4号遺跡

(財)東広島市教育文化振興事業団 文化財センター報

阿岐のまほろば Vol.9

発行日 平成9年7月31日

編集・発行 財団法人東広島市教育文化振興事業団 文化財センター
東広島市西条町大字馬木541-1

TEL 0824-25-3880 〒739

印刷 今谷印刷株式会社